

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3139510号
(U3139510)

(45) 発行日 平成20年2月21日 (2008. 2. 21)

(24) 登録日 平成20年1月30日 (2008. 1. 30)

(51) Int. Cl.

F 1

A 4 7 B 45/00 (2006. 01)

A 4 7 B 45/00

A 4 7 B 47/03 (2006. 01)

A 4 7 B 47/03

評価書の請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 22 頁)

(21) 出願番号 実願2007-9135 (U2007-9135)
 (22) 出願日 平成19年11月27日 (2007. 11. 27)
 (31) 優先権主張番号 096120488
 (32) 優先日 平成19年6月7日 (2007. 6. 7)
 (33) 優先権主張国 台湾 (TW)

(73) 実用新案権者 501239446
 輝庭企業股▲ふん▼有限公司
 台湾彰化縣芳苑鄉工業路30號
 (74) 代理人 100141379
 弁理士 田所 淳
 (74) 代理人 100080252
 弁理士 鈴木 征四郎
 (74) 代理人 100106448
 弁理士 中嶋 伸介
 (72) 考案者 蔡長銘
 台湾彰化縣二林鎮光復路31號

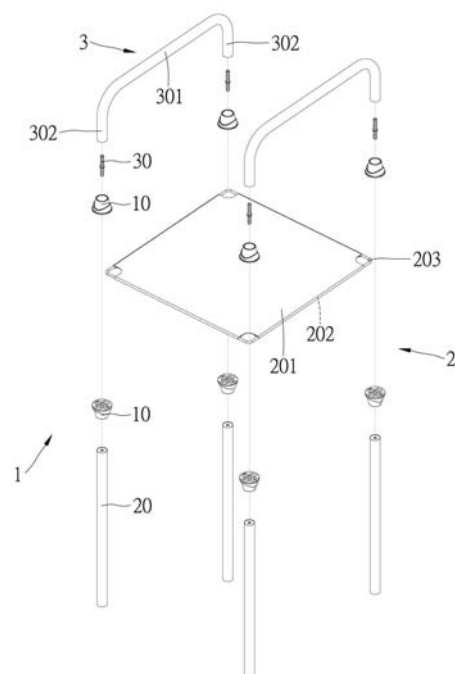
(54) 【考案の名称】 無限に延長できる物置枠

(57) 【要約】

【課題】無限に延長できる組み合わせ式物置枠を提供する。

【解決手段】本考案に係る無限に延長できる物置枠は複数の物置部材2と複数の連結装置1を含み、物置部材2と連結装置1によって物置枠が形成され、連結装置1には接続塊10が設けられて軸方向に無限に延長して外の連結装置に接続することができ、接続塊10は横方向に無限に延長して複数の物置部材2に接続することができ、無限に延長でき物置枠を形成する。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

無限に延長できる物置枠であって、前記物置枠の隅に複数の接続部が形成されてある物置部材と、

二つの接続塊、棒と連結部材を備え、二つの前記接続塊は前記物置部材の接続部を嵌め付け結合して覆い被せ連結し、前記棒はその中の一つの接続塊を通りぬき、前記連結部材を通じて二つの接続塊を連結固定して脱落しないようにする複数の連結装置とを備え、前記物置部材と複数の前記連結装置によって前記物置枠を形成し、前記連結装置の接続塊は軸方向に無限に延長して連結装置の接続に用いられることができ、前記接続塊はまた横方向に無限に延長して前記物置部材を接続することができることを特徴とする無限に延長できる物置枠。

10

【請求項 2】

前記接続塊には孔が形成され、前記孔は前記連結部材を通すことに用いられ、前記接続塊には収納孔を形成し、前記孔は同時に前記収納孔に取り付けられてあることを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

【請求項 3】

前記接続塊の一面は接続面であり、前記接続面には二つの嵌め部が設けられ、二つの嵌め部は二つの接続塊の結合時の嵌め付け固定に用いられ、二つの嵌め部にはそれぞれ突起と凹孔が形成され、二つの接続塊が結合した場合、前記突起は前記凹孔に対応して嵌め付けて固定することを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

20

【請求項 4】

前記接続塊の一面は接続面であり、前記接続面にはL形に近似する複数の凹溝が設けられ、前記凹溝は物置部材の接続部の取り付けに用いられ、二つの接続塊の凹溝は物置部材の接続部を制限して脱落しないようにし、L形の凹溝には折り曲げ個所と二つの脚が形成され、前記折り曲げ個所は中心に近隣し、二つの前記脚は接続塊の周縁までに延長することを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

【請求項 5】

前記棒の両端にはすべてねじ孔が形成され、連結部材はねじ棒に実施され、連結部材は棒のねじ孔にねじ付けられて物置枠は軸方向に無限に延長することができ、連結部材には当て部が形成され、連結部材の両端を接続塊にねじ付けた場合、連結部材の当て部を通じて接続塊の一つに当て付け、同時に別の接続塊を固定することを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

30

【請求項 6】

前記二つの連結装置は接続棒に接続し、接続棒には手持ちに用いられるグリップ部が設けられ、グリップ部は延長して二つの接続脚に形成して連結装置の接続塊に取り付けられ、接続脚には連結部材の接続固定に用いられるねじ孔が設けられ、同時により安全になるため、物置枠の頂上部には如何なる突き出した棒がないようにすることを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

【請求項 7】

前記連結装置の接続塊には側板が設けられて置かれた品物が落下しないように物置枠の側辺を閉鎖し、側板にはシートが設けられ、シートの両端はそれぞれ挿し筋を覆い被せ、挿し筋は接続塊の凹溝に取り付けられることを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

40

【請求項 8】

前記連結装置の接続塊にはU字に近似した挿し筋が設けられ、挿し筋には両脚が接続塊に取り付けられる凹溝が設けられ、それは物置枠の側辺を閉鎖して置かれた大きい品物の落下を防止することができ、物置部材が四辺形に実施された場合、接続面の凹溝は物置部材に対応して四つに設けられることを特徴とする請求項 1 記載の無限に延長できる物置枠。

【請求項 9】

前記物置部材には枠を覆い被せるシートが含まれ、枠は必要な閉鎖形状に折り曲げられ、

50

枠の折り曲げ個所はシートに覆い被されないで前記接続部を形成することを特徴とする請求項1記載の無限に延長できる物置枠。

【請求項10】

前記物置部材は一体成形の態様に現れて多数個の網状の孔の板を備え、隅の網状孔を用いて接続部に実施されることを特徴とする請求項1記載の無限に延長できる物置枠。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は物置枠に係り、特に組み合わせ式物置枠に関するものである。

【背景技術】

10

【0002】

図16には従来の物置枠の継ぎ目の固定構造を示す。それは物置枠に於いて組み接がれるチューブ(tube)91及び連結用のジョイント(joint)92を含む。その特徴は、ジョイントが製作成型されたら、伸び出した端縁を陥落した階段のある端部に設け、端部の環面には複数個の開口溝93が設けられて端部は相対する円弧形のシートを備え、かつ一枚の円弧形シートに外側からねじ95を締め付けることができるねじ孔94が設けられ、ねじ95によって相対する円弧形シートの内側を締め付けて拡大状の圧迫操作を形成し、挿入されたチューブ91は円弧形シートの拡張によって全面的に圧迫締め付けられ、物置枠を安全堅固に組み付ける目的が達成される。

【0003】

20

ところが、従来のチューブとジョイントはねじを用いてねじ孔に締め付けるので、工具を必要として締め付けなければならず、使用者の容易に組み立てる精神に符合しなく、現在の自己組み立てを求める設計に対し、外に工具を使うことは親切な設計といえないので、それを改善する必要がある。

【0004】

このことに鑑み、本考案者は容易に組み立てられ、使用者は自分で物置枠を延長することができる設計の研究開発に尽力し、自分で容易に組み立てられる物置枠により、使用者は使用のニーズ(needs)によって必要とする物置枠の数を増やすことができ、かつ物置枠の固定方式は工具を使わず素手で組み立てることができ、確かに自分でやる精神に符合する設計といえる。

30

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

本考案に係る『無限に延長できる物置枠』が解決しようとする問題は、従来の物置枠は工具を用いてねじ付け固定する必要がある、自分で容易に組み立てる精神に符合しなく、それを改善する必要がある。そこで、本考案は、無限に延長できる組み合わせ式物置枠を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案に係る『無限に延長できる物置枠』は連結装置によって容易に軸方向の延長と横方向の延長ができ、接続する物置部材とその他連結装置と合わせ、無限に延長できる物置枠を形成し、自分でやる精神に符合し、使用者は工具を使わず容易に組み立てることができ、かつ使用者が物置枠を増やす場合、接続塊の凹溝と収納部によって不断に横方向または軸方向に延長することができる。

40

【考案の効果】

【0007】

以上に述べたことにより、本考案には次のような効果がある。

1. 本考案に係る無限に延長できる物置枠は手工具を使わずとも組み立てることができ、非常に便利で使いやすい。

2. 本考案に係る無限に延長できる物置枠は使用者のニーズによって自分で物置枠の個数

50

と層数を増やすことができ、自分でやる精神に符合する。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

図1から図6には、本考案物置枠の第一実施例の立体外観図、立体分解図と意表図を示す。本考案の第一実施例は単層単独式の物置枠であり、その物置枠は複数の連結装置1と複数の物置部材2を含み、物置部材2は多辺形に実施され、連結装置1は多辺形物置部材2の隅に設けられてある。本実施例に於いて物置部材2は四辺形の板であり、物置部材2は枠202を覆い被せるシート201を含み、枠202は必要な閉鎖形状に折り曲げられ、枠202の折り曲げ箇所はシート201に覆いされなく、複数の接続部203に形成される。

【0009】

前記連結装置1は二つの接続塊10、棒20と接続部材30を含む。接続塊10には接続面11、接続面11を貫通する孔12と収納孔13が形成され、収納孔13は孔12に連通し、接続面11の適当箇所には二つの嵌め部14が設けられ、二つの嵌め部14はそれぞれ突起と凹孔に形成され、接続面11には複数のL形に表れる凹溝15が設けられ、L形凹溝15には折り曲げ箇所と二つの脚が形成され、折り曲げ箇所は中心に近隣し、二つの脚は接続塊10の周縁までに延長する。物置部材2が四辺形に実施された場合、接続面11の凹溝15は物置部材2に対応して四つに設けられ、物置部材2の接続部203はちょうど接続塊10の凹溝15に収納される。二つの接続塊10の接続面11は物置部材2の接続部203を収納し、凹溝15は接続部203を覆い被せ、嵌め部14の突起はちょうど凹孔に対応して二つの接続塊は結合される。

【0010】

棒20の長さは使用者自分が選択し、置く品物の高さによって棒20の高さを選択する。棒20の両端にはそれぞれねじ孔21に設けられ、棒20は接続塊10の収納孔13に取り付けられて接続塊10に結合される。

【0011】

接続部材30はねじ棒に実施され、接続部材30の中間には当て部31が設けられ、それによって連結部材30が接続塊10に締め付けられた場合は相対して回転しないようになる。

【0012】

物置部材2の四つの接続部203には四組の連結装置1が組み付けられ、二つの接続棒3はそれぞれ二組の連結装置1に接続され、接続棒3はU字形に近似してグリップ部301と二つの接続脚302を形成し、接続脚302はそれぞれ接続塊10の収納孔13に取り付けられ、かつ接続脚302にはねじ孔303が設けられ連結部材30のねじ付けられる。グリップ部301は延長して二つの接続脚302を形成し、物置枠の頂上部には如何なる棒20が突き出さないのにより安全である。

【0013】

図7と図8には、本考案の物置枠の第二実施例の立体外観図を示す。第二実施例は第一実施例を基礎とし、それは第一実施例の単層単独式物置枠を二層単独式物置枠に延長したもので、前記物置枠の連結装置1から更に四つの連結装置1と物置部材2が延長すれば二層の物置枠になる。棒20の長さは自由に調整することができ、本実施例に示すように、地面に立つ棒20はやや短い態様に実施される。

【0014】

また、物置部材2は一体成型の態様に実施されることができ、本実施例に於いてそれは多数個の網状の孔を備えた板に実施され、物置部材2の四つの角が網状孔によって成形された接続部203を用い、接続部203を二つの接続塊10によって覆い被せれば物置部材2を挟み固定する効果が達成される。本考案の主要な創造精神は連結装置1が無限に延長することができ、無限に延長する目的が達成される。

【0015】

図9と図10には、本考案の物置枠の第三実施例の立体外観図を示す。第三実施例は第二実施例を基礎とし、それは物置枠の側辺に遮蔽を備えた設計に実施され、本実施例の二層の物置枠の側面にそれぞれ側板4が設けられ、側板4にはシート401が設けられ、シート401の両端にはそれぞれ挿し筋402が覆い被され、挿し筋402はU字形に近似し、それには二つの

10

20

30

40

50

脚403が突き出して設けられてちょうど接続塊10の凹溝15に取り付けることができ、二つの接続塊10が組み合わせられると、二つの凹溝15は孔に形成されてシート401の脚403を連結装置1の接続塊10の凹溝15挿入し、側板4の設置によって物置枠内に置かれた品物は落下しにくくなる。

【0016】

図11には、本考案の物置枠の第四実施例の立体外観図を示す。第四実施例は第二実施例を基礎とし、それは物置枠の側辺に当て止めを備えた設計に実施され、本実施例の二層の物置枠の側面にそれぞれ挿し筋402が設けられ、挿し筋402はU字形に近似し、それには二つの脚403が突き出して設けられてちょうど接続塊10の凹溝15に取り付けることができ、挿し筋402の設置によって物置枠内に置かれた大型品物は落下しにくくなる。

10

【0017】

図12には、本考案の物置枠の第五実施例の立体外観図を示す。第五実施例は第一実施例を基礎とし、それは第一実施例の単層単独式物置枠を四層単独式物置枠に延長したもので、前記物置枠の連結装置1から更に複数個の連結装置1と物置部材2が延長すれば四層の物置枠になる。連結装置1は延長されて連結装置1に接続し、本実施例に於いて、連結装置1は延長されて合計四つの連結装置1に接続され、各連結装置1にはそれぞれ一つの物置部材2が取り付けられ、四層の物置機能を備える物置枠に形成される。

【0018】

図13には、本考案の物置枠の第六実施例の立体外観図を示す。第六実施例は第五実施例を基礎とし、それは第五実施例の四層単独式物置枠を四層二個式物置枠に延長したもので、前記物置枠の連結装置1の接続塊10には四つの凹溝15が備えられ、四つの凹溝15はそれぞれ四つの物置部材2が延長され、本実施例に於いて二つの物置部材2が延長されて二個式の物置枠に形成される。

20

【0019】

図14には、本考案の物置枠の第七実施例の立体外観図を示す。第七実施例は第六実施例を基礎とし、それは第六実施例の四層二個式物置枠を四層三個式L形物置枠に延長したもので、その一列の連結装置1の接続塊10の凹溝15は延長して三つの物置部材2設けられ、L形物置枠に形成される。

【0020】

図15には、本考案の物置枠の第八実施例の立体外観図を示す。第八実施例は第五実施例を基礎とし、それは第五実施例の四層単独式物置枠を三個式一字形物置枠に延長したもので、その連結装置1は選択的に物置部材2と別の連結装置1に延長して取り付け、必要な層数と個数に延長され、それは使用空間に合わせて一字形またはL形または外の形式に延長することができる。

30

【0021】

本考案の無限に延長でき物置枠は連結装置によって容易に軸方向の延長と横方向の延長ができ、無限に延長できる物置枠を形成することができる。本考案の無限に延長でき物置枠は自分でやる精神に符合し、使用者は工具を使わないで容易に組み立てることができ、かつ使用者が物置枠を増やす場合、接続塊の凹溝と収納部によって不断に横方向または軸方向に延長することができる。

40

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】本考案第一実施例の立体外観図である。

【図2】本考案第一実施例の立体分解図である。

【図3】本考案の図2から取った局部拡大図であり、連結装置を表す説明図である。

【図4】本考案連結装置の軸方向の断面説明図である。

【図5】本考案連結装置の横方向の断面説明図である。

【図6】本考案の図5から取った局部拡大図であり、物置部材と接続塊が結合したことを表す説明図である。

【図7】本考案第二実施例の立体外観図である。

50

【図 8】本考案の物置部材が一体成形に実施された説明図である。

【図 9】本考案第三実施例の立体外観図である。

【図 10】本考案第三実施例の立体分解図である。

【図 11】本考案第四実施例の立体外観図である。

【図 12】本考案第五実施例の立体外観図である。

【図 13】本考案第六実施例の立体外観図である。

【図 14】本考案第七実施例の立体外観図である。

【図 15】本考案第八実施例の立体外観図である。

【図 16】従来の物置枠の継ぎ目の固定構造の説明図である。

【符号の説明】

10

【0023】

(従来構造)

91 チューブ
92 ジョイント
93 開口溝
94 ねじ孔
95 ねじ

(本考案)

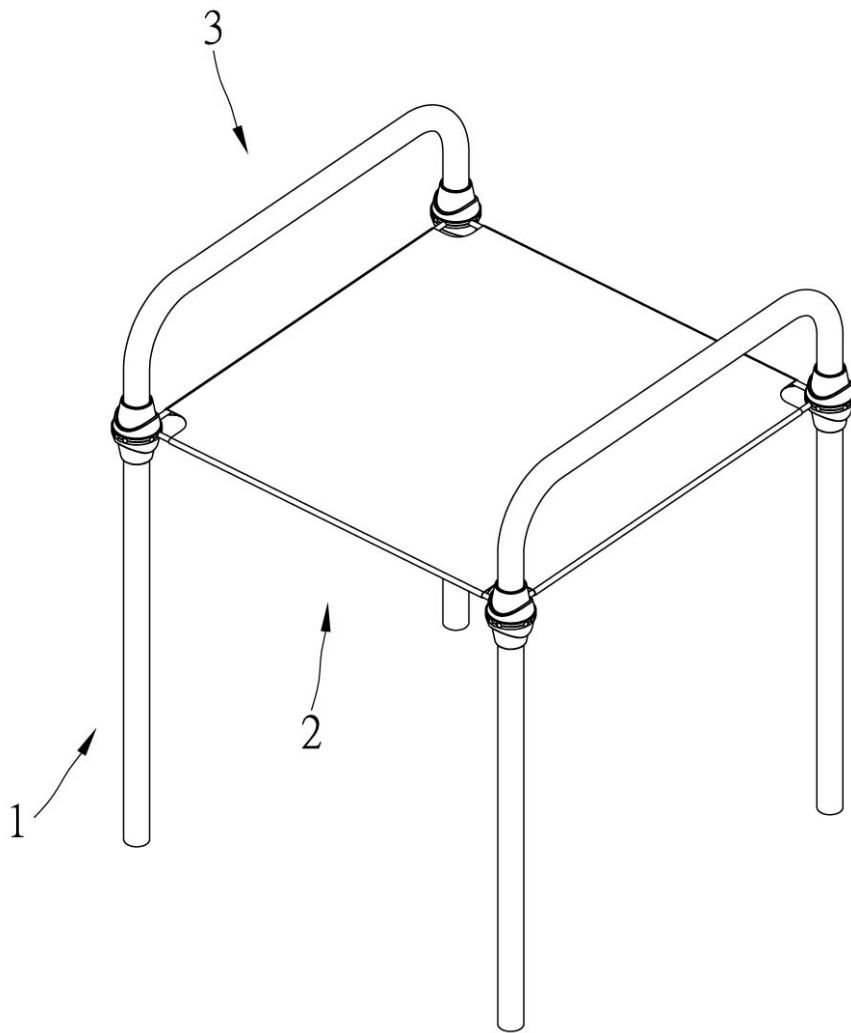
1 連結装置
10 接続塊
11 接続面
12 孔
13 収納孔
14 嵌め部
15 凹溝
20 棒
21 ねじ孔
30 連結部材
31 当て部
2 物置部材
201 シート
202 枠
203 接続部
3 接続棒
301 グリップ部
302 接続脚
303 ねじ孔
4 側板
401 シート
402 挿し筋
403 脚

20

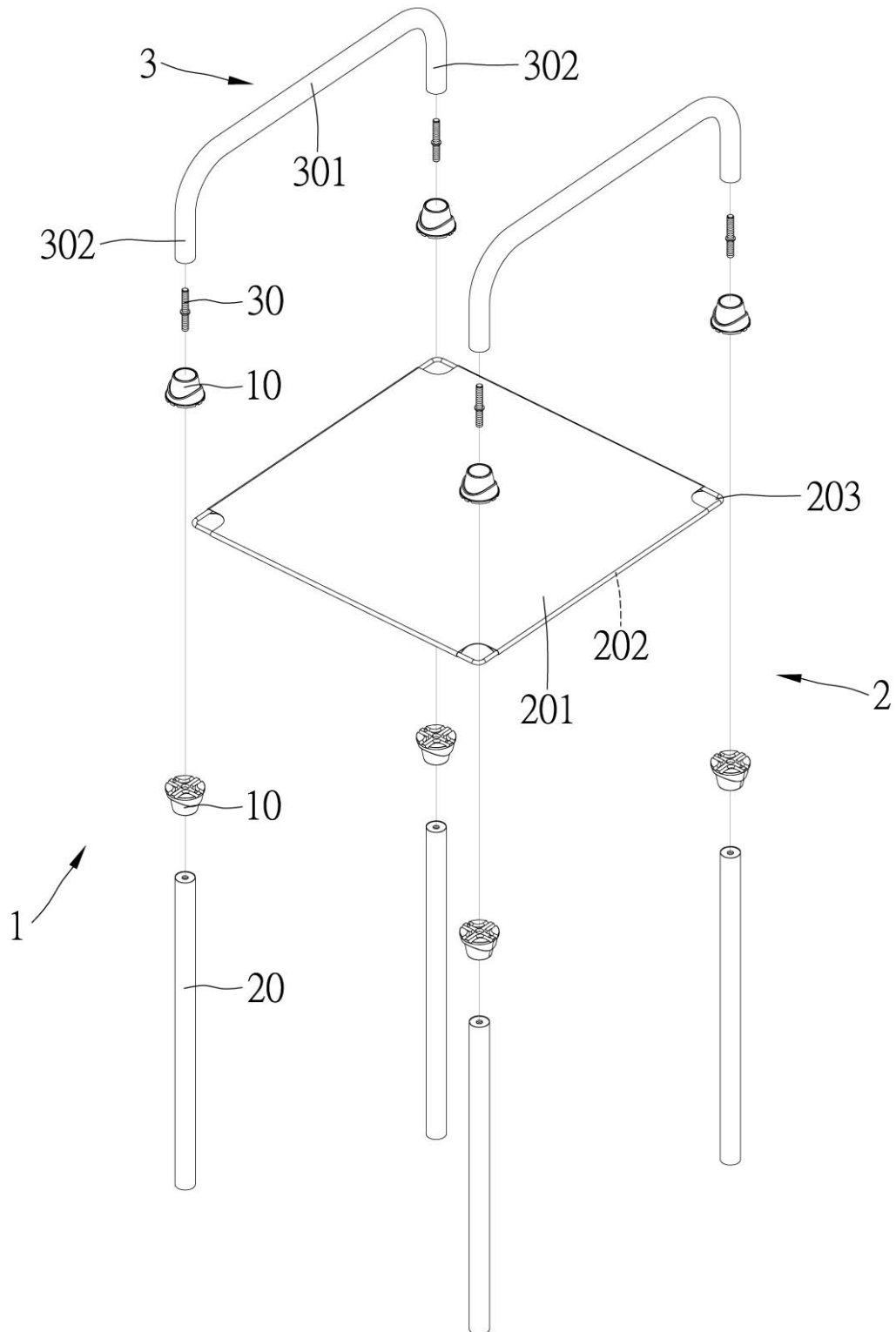
30

40

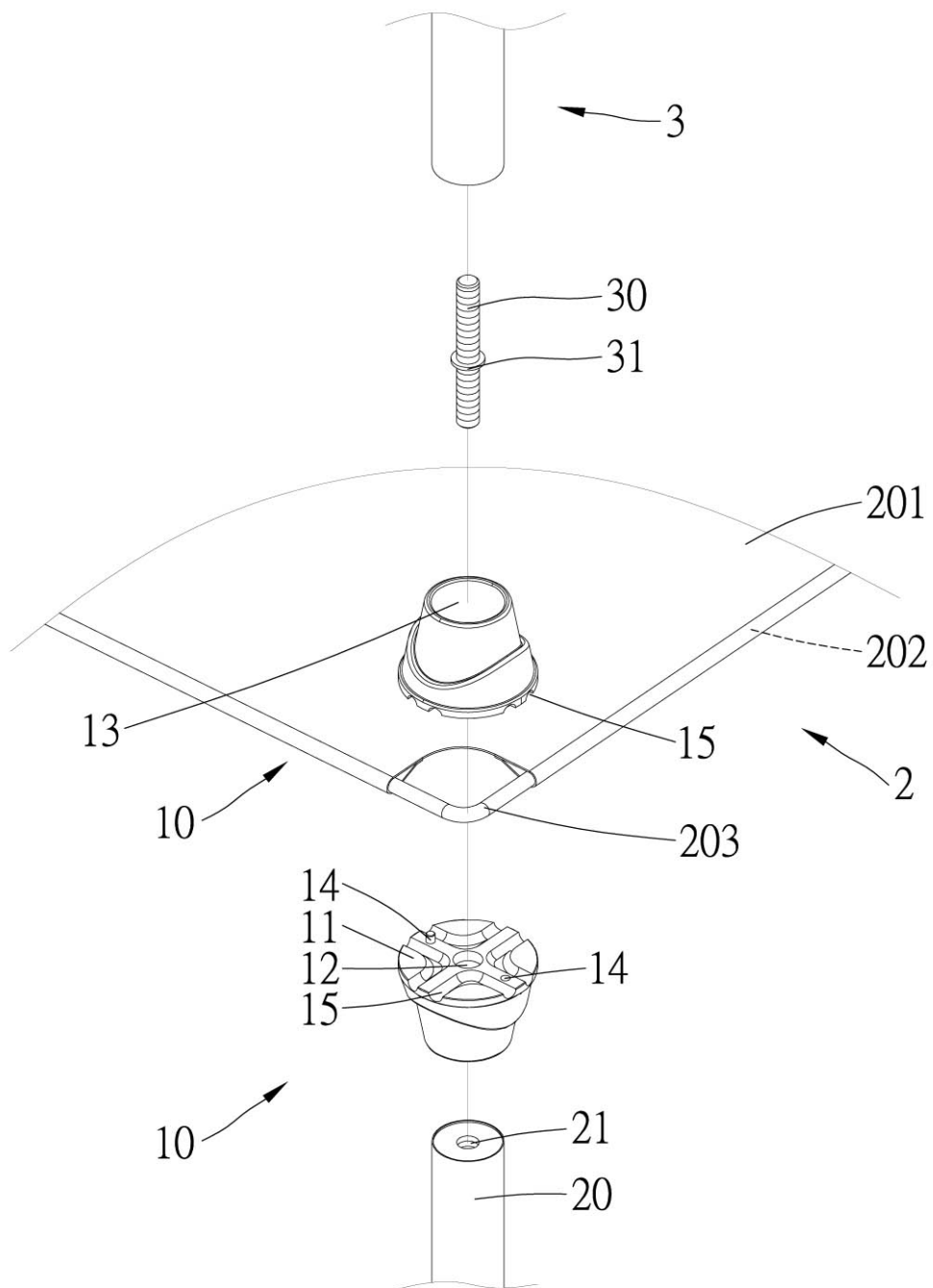
【図 1】



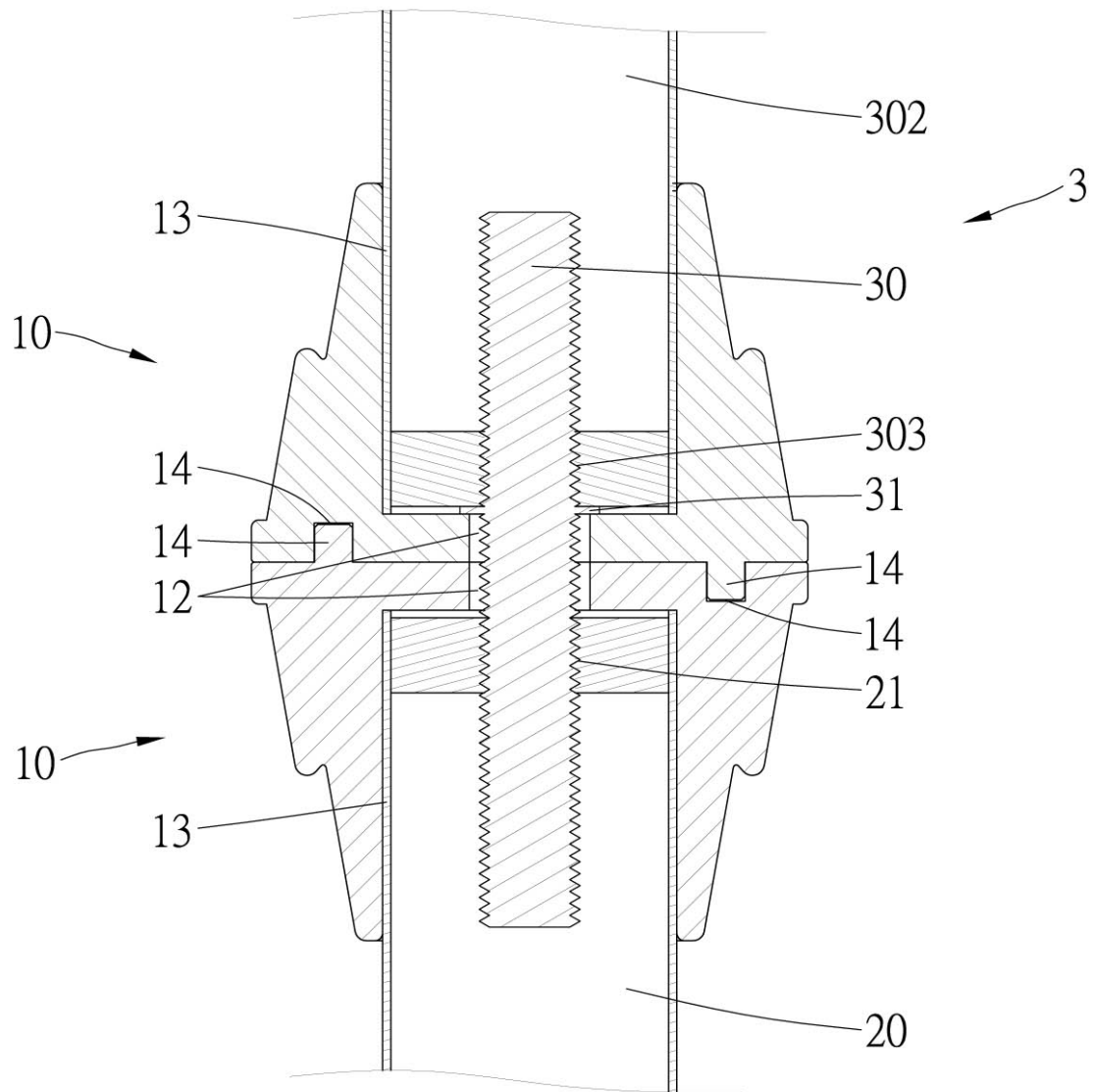
【図 2】



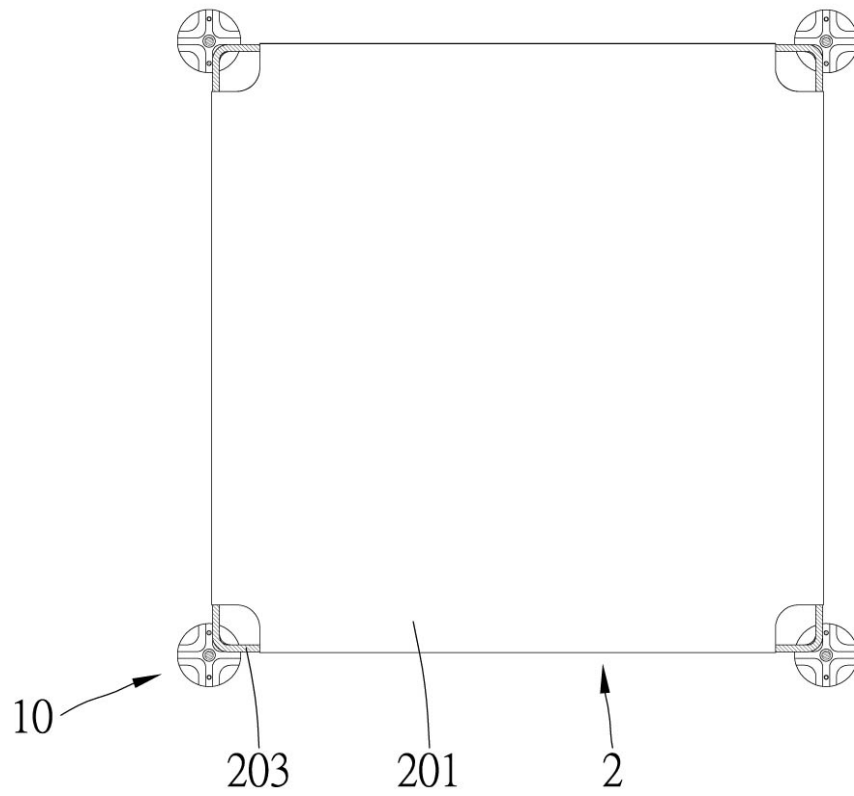
【図 3】



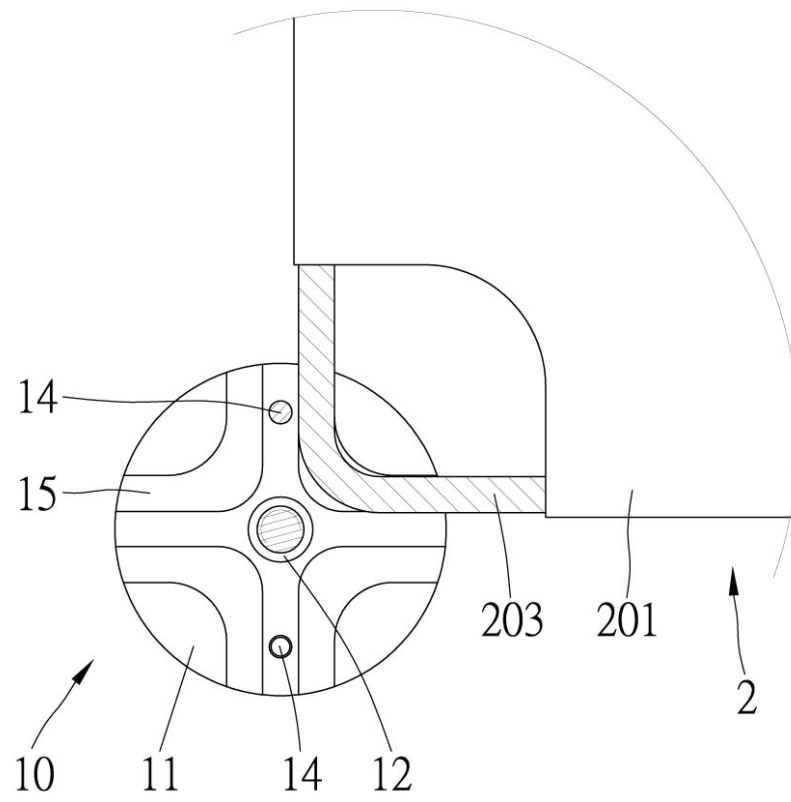
【図 4】



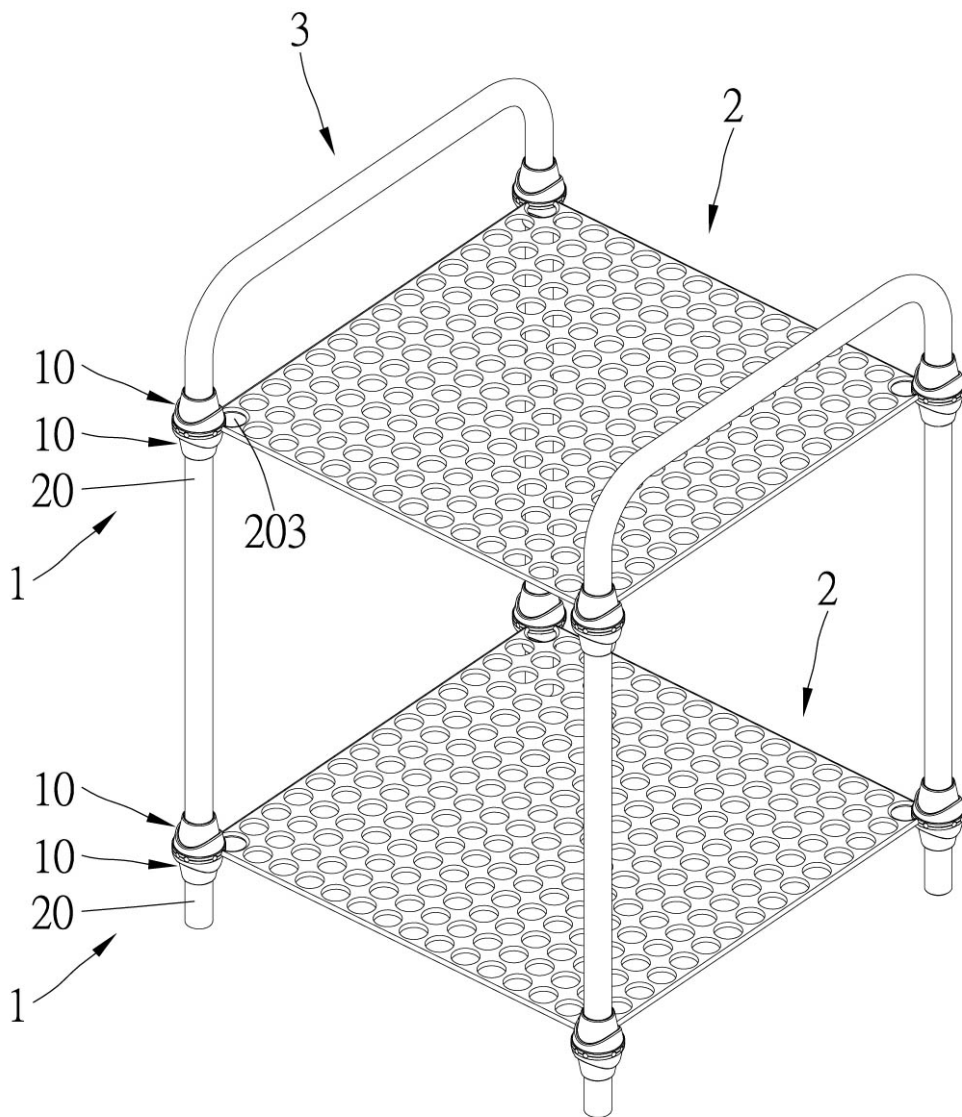
【図 5】



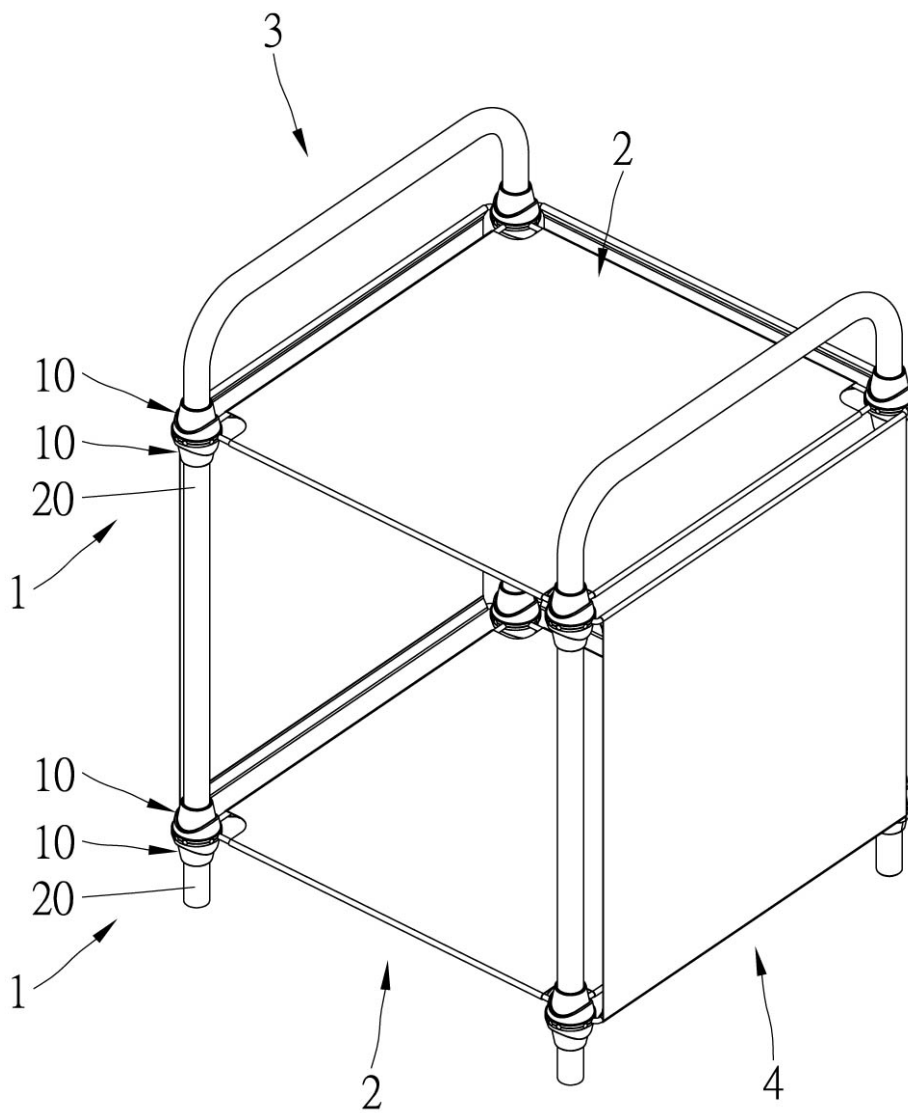
【図 6】



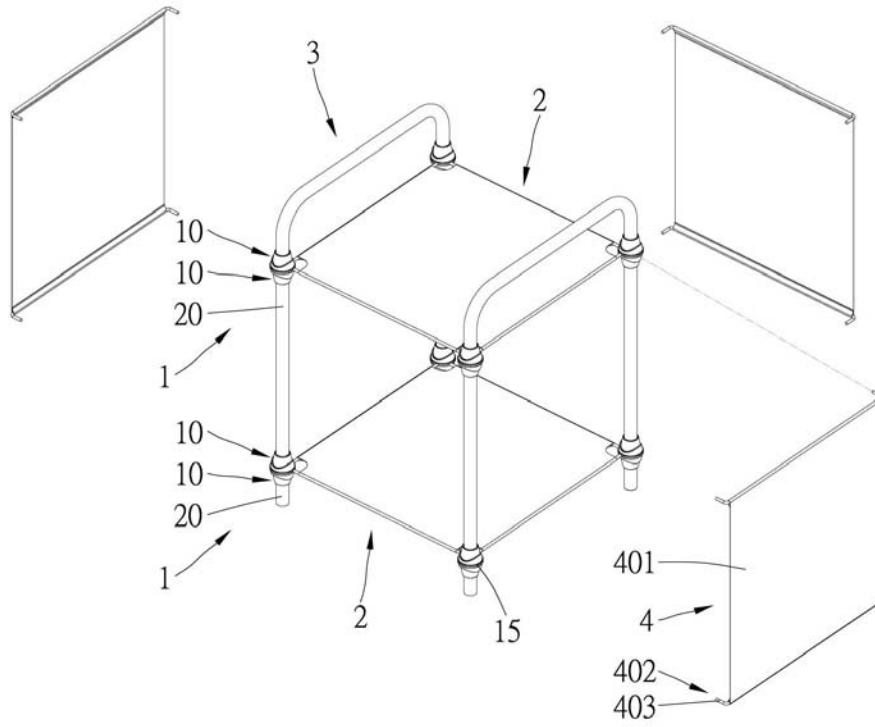
【図 8】



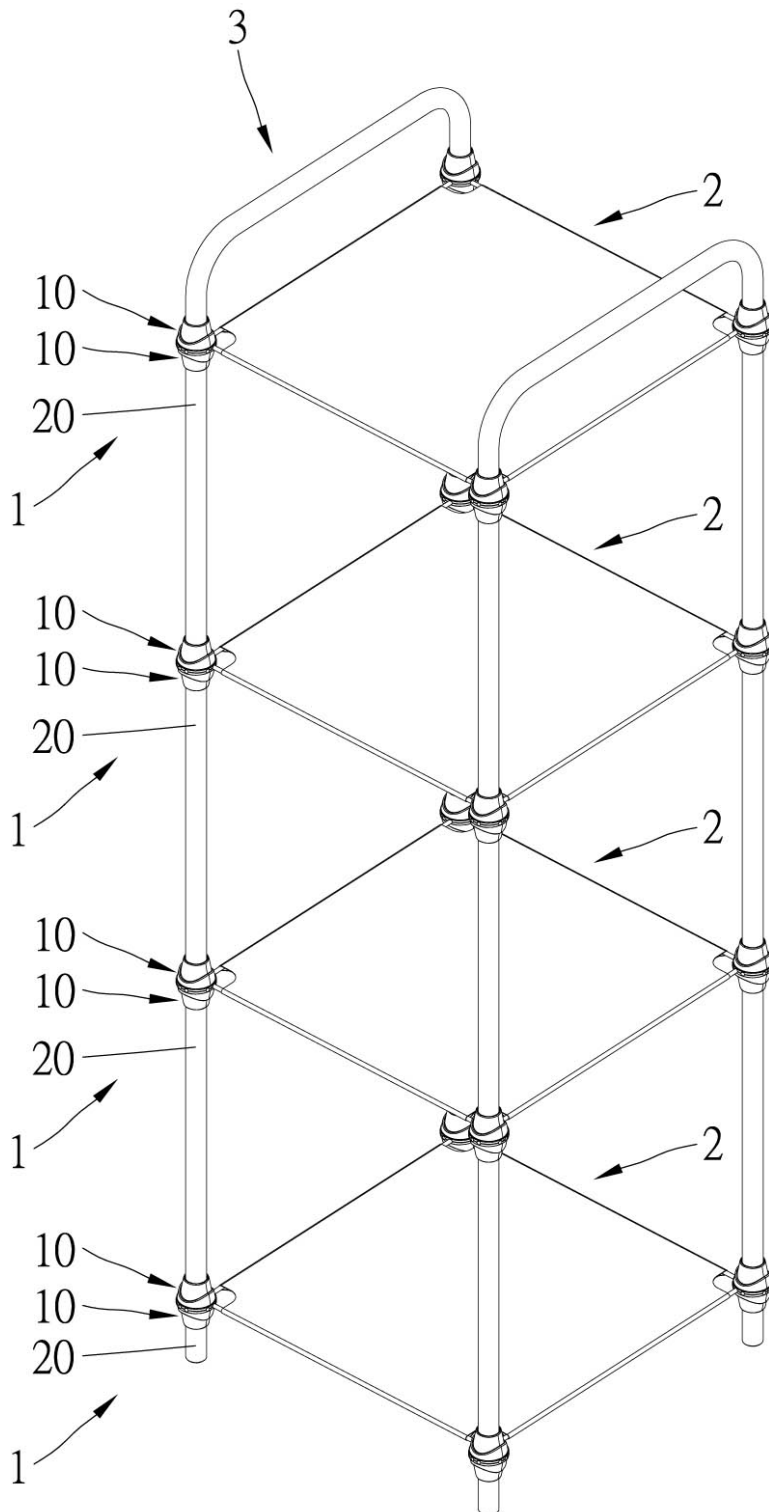
【図 9】



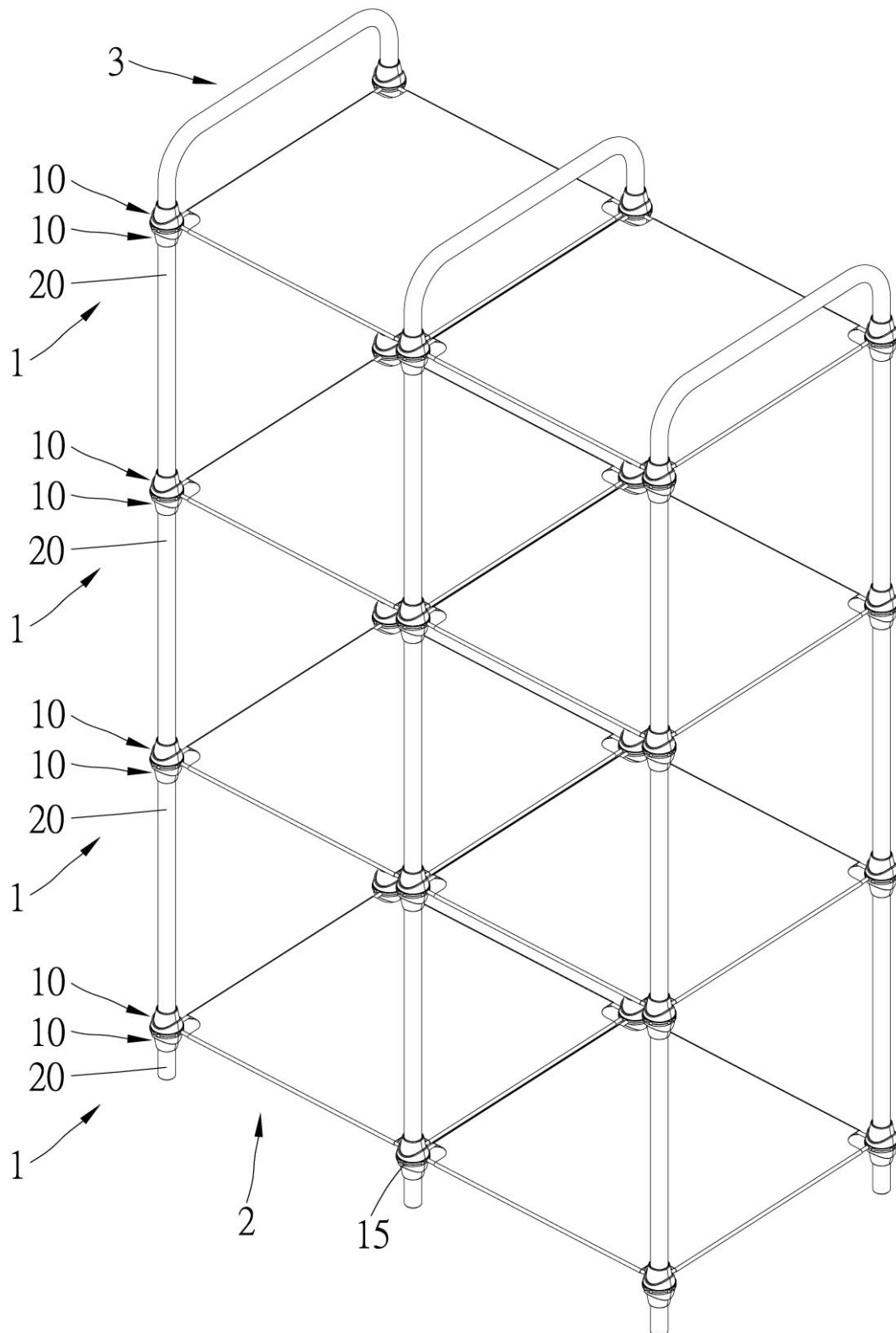
【図 10】



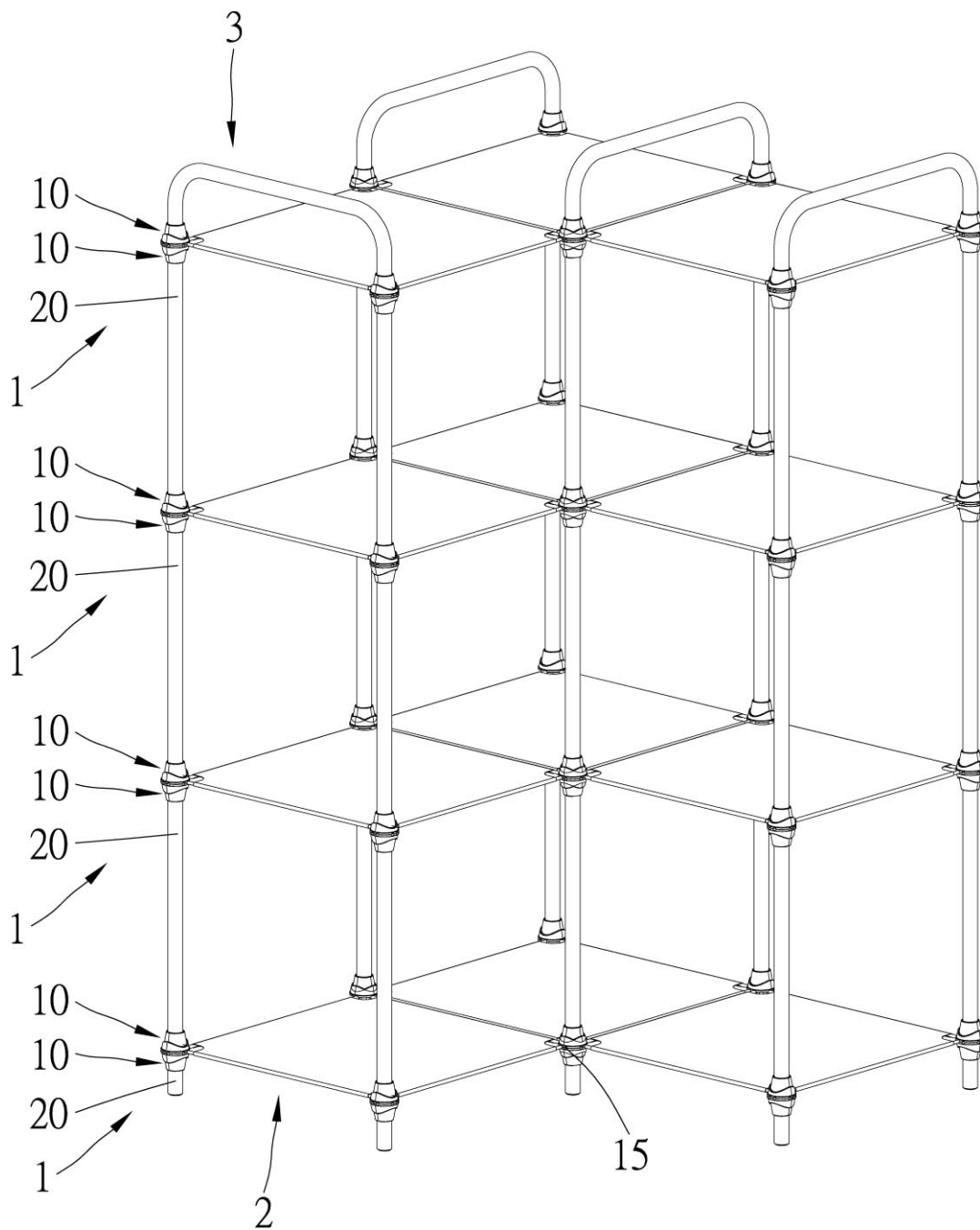
【図 12】



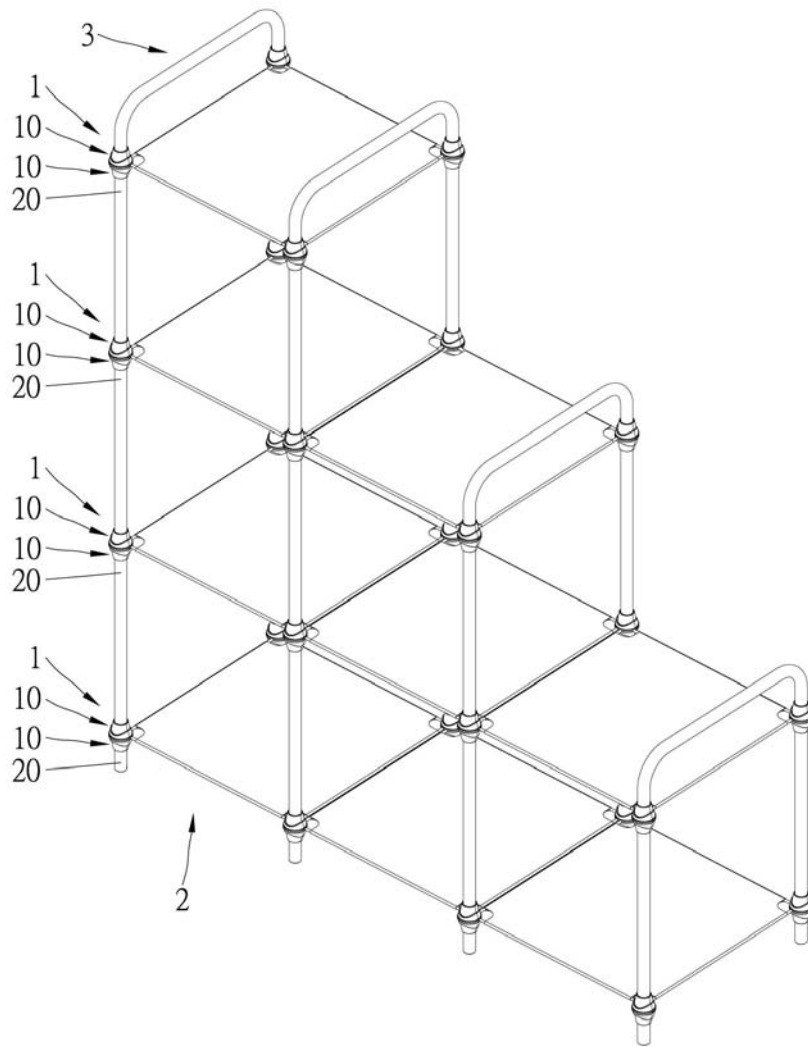
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【図 16】

